勤務医コーナー

◉勤務医に関する話題や投稿などで構成するコーナーです。勤務医生活の雑感、あるいは意見をこの欄にお寄せください。
◉投稿要領…700字程度、名古屋市昭和区妙見町19－2、愛知県保険医協会「勤務医コーナー」係まで。薄謝進呈致します。

「新型コロナ感染症」で出てきた時事用語

昭和区　土持　師

刻々と新しい情報が入ってくる今日、この話題を寄稿するのは「過去の話であって何を今頃…」と言われるかもしれませんし、何を言っても古いといわれるでしょうが、現状ではこの話題を避けられない状況であり皆さんが関心あることでしょう（四月下旬で原稿依頼を受け、六月初め投稿であることをご理解ください）。

初めのころは海外での情報が、早くから取り上げられており、オリジナルの外来語？　が多く使われていたのではないでしょうか。スーパースプレッター、パンデミック、クラスター、オーバーシュート、エアロゾル感染など普段使わない言葉が出てきました（この文章作成中にもソーシャルディスタンスという用語がよく使われ始めました）。

日本語でも三密、濃厚接触、不要不急、非常事態宣言、医療崩壊と、GW明けにやっと「出口戦略」という前向きな言葉が使われ始めました。それでもまだ第二波という慎重な用語が出てきています。

今回COVID－19だけは、わかりにくかったのか発表が遅かったのか、新型コロナウイルス感染症のほうが定着しているように思います。

言葉の意味や解釈は厳密にはそれなりに使い分けなければならないのでしょうが、自分なりの解釈で理解しようとしていました。

例えばスーパースプレッターは「感染力の強い保菌者」のようなもの、クラスターは「集団発生」のようなもの、エアロゾル感染は「微粒子の飛沫感染」のようなものと解釈していました。専門家から見ると、厳密には違うよ、と言われるでしょう。

逆に（DNAの実験をやっていた）私からみるとPCR検査というと新型コロナウイルスの遺伝子検査と言われているようですが、PCR自体は遺伝子の断片を増幅させる連鎖反応（polymerase chain reaction）であって、ちょっと違う、と思ってしまいます。

言葉の意味や解釈は、人や時代によっても微妙に変わりますが、これらの言葉が共通認識としてなじむ（定着する）ときには、この非常事態が、過去の話として単語だけ覚えればいい社会状況になってほしいものです。